

会議記録（要旨）

会議名	令和2年度 第2回杉並区子ども読書活動推進懇談会
日時	令和3年3月15日（月） 午後2時～3時30分
場所	中央図書館 ミーティングルーム1・2
出席者	委員 前田委員、スギヤマ委員、滝田委員、中山委員、寺嶋委員、小林委員、鈴木委員、辻委員
	事務局 中央図書館次長、事業係（石栗係長）、資料相談係（寺崎係長） 企画運営係（佐川係長、早川）
配付資料	令和2年度 第2回杉並区子ども読書活動推進懇談会 次第 資料1「杉並区子ども読書活動推進進捗管理票（2年度第3四半期分） その他 各委員持ち寄り資料
<p>1 開会</p> <p>2 中央図書館長あいさつ</p> <p>3 杉並区立図書館の最近の動向について （永福図書館の開館、新型コロナウイルス対応等について、中央図書館次長から説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> 永福図書館が4月にオープンする。移転改築し、集会施設と併設の施設になった。 図書館行事は、コロナ感染防止対策を取りながら、実施している。いずれの行事も、参加者が多く、求められていることを実感している。 <p>〈質疑応答・意見〉</p> <p>委員 コロナ対策をしながら事業を継続していることはありがたい。</p> <p>委員 昨年度4月に臨時休館したことについて、図書館にどんな意見があったか</p> <p>事務局 どうして開けるのかという意見と、開館してほしい、貸出だけでも継続してほしいという両方の意見が届いた。年明けに緊急事態宣言が出るという報道の後、また図書館が閉まってしまうと思われたのか、貸出が急増した。</p> <p>4 子ども読書活動推進進捗管理票の報告について （事務局から、第3四半期、第4四半期を報告）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3四半期は、例年並みの活動を行うことができた。 方南図書館職員による方南児童館における乳児を持つ保護者向けのブックトーク 親子で楽しむ「手話おはなし会」（阿佐谷図書館） 感染予防対策をしながらの学校図書館開館 図書館での職場体験、図書館見学の受け入れ再開 児童館でのおはなし会回数増 など <p>〈質疑応答〉</p> <p>委員 図書館員が聾学校に出向いて出張おはなし会をしてきているが、そのメリットは何か。また、そこで得た経験（例えば、オノマトペの表現の仕方など）は、積み重ね引き継がれているのか</p>	

事務局 おはなし会を実施することだけではなく、そこで学んだことを共有するなど、手話おはなし会のあり方を検討していきたい

5 子ども読書活動推進計画への意見交換

事務局 現在の子ども読書活動推進計画は、令和3年までとなっており、次年度は計画改定の年となる。計画改定作業は改定委員会と子ども読書活動推進連絡会を作業部会として行うが、懇談会委員の皆様からのご意見をいただきたい。

委員 ・計画を読んでも、抽象的でおとなしめな表現が多く、物足りなく感じた。しかし、計画の進捗管理票などを見ると、実態はもっと豊かであることが分かる。HPでのアピール等広報的なものがまだ弱い。

・計画改定においても、杉並での取り組みを重ねるだけではなく、他の自治体の取り組みを参考にした研究プロセスをとってもいいのではないかな。

・ギガスクール（デジタル化）や読書バリアフリー法の取り組みに対し、図書館からのバックアップが見えるような計画であるといいと思う。

委員 ・バリアフリーについて気になっている。読むことに困難がある人が図書館の読み上げサービスを受けたいと思ったところ、障害者手帳のようなものが存在しないため、サービスを受けるところまでたどり着くまでがとても大変だったと聞いた。サービスはあっても届けるところまでたどり着いていないという問題がある。とある施設で、「何が困りますか？」というアンケートを作っており、困っていること別にQRコードが示されていて相談先に導くことができる、という工夫がされていた。

・情報の渡し方の工夫が大切になる。

他自治体の図書館では、いろいろなチラシや書籍のリスト（年齢別に細かなリストを作っていた）などを、本棚の上やなど本の近くに置いていた。必要としている人と情報を結びつけるという工夫は、原点に戻って大事なことであると感じた。

・読書活動のすそ野を広げ方としての提案として、ブックスタートの後、セカンドやサード、フォースまでやっている自治体もある。予算は無くても、コーナー展開はできる。子どもは、絵本は読み聞かせてもらっていても、幼年童話になると「もう自分で読めるでしょう」と急に手を放されてしまう。自分で読めるところまでつなげていくことが必要。

・LLブックは、普通に読んでも分かりやすいものだが、自分には関係ないと思いがちになる。DAISYも同様だが、コンテンツ名が付くと、その名称自体が「バリア」になってしまっている。

委員 ・子どもの中には、耳からでない物語が入ってこない子もいる。読書記録に読み聞かせをした本を挙げている子どもがいて、これも読書なんだと実感したことがある。図書館や家庭文庫は本が好きな子どもしかこないが、学校にはいろいろな子どもがいるので耳から入る文学・物語ということも、もう少し取り組めるといい。

・図書館が併設施設になっていくのであれば、板橋区や江戸川区のように、美術館や科学館と併設すると面白い。

委員 ・中学校で教室に入れない生徒が、たまたまPTAのボランティアと一緒に学校図書館の壁面構成作成の作業を行ったことがあった。教室には入れなくても学校図書館が居場所になるということは意味があると感じる。

・中学生の自由研究を見ると、9割がたインターネットで調べていて、残り1割が

本をちょっと参考にしていた。本を使うことの良さを伝えたい。そのために、本の使い方、物事をどうやって考えるかということ伝えなければいけない。自由研究をするにも、どういうものを調べたらいいか、ということから発信していきたい。

委員 ・今の子ども読書活動のキーワードは、特別支援と情報化である。

りんごの棚という取り組みがあるが、特別な子のための特別な資料を集めた棚ではなく、誰もが使いやすい、みんなの本棚であることを伝えたい。

・小学校3年生からユニバーサルデザインを勉強しているので、図書館もそういう配慮をしているということをアピールしてはどうか。学習障害がある子は、クラスに6%くらいいると言われている。リーディングトラッカーも、一般教室において、読むときに使うと効果的なんだということをさりげなくみんなに教えていくことは必要だと思う。

・図書館の使い方、資料の使い方を子どもにどう伝えるかについて杉並の学校司書は熱心に取り組んでいるが、見てみると、結局ネットだけで終わっている、というところの差をどう埋めていくのかは課題。

・先生方もデジタルネイティブなので、先生たちに本の良さを伝える必要がある。調べものをするには、ネット検索よりも書架で本を探したり、目次を見たりするほうが早いことがあるので、若い先生が本の良さを知れば、子どもにもつながっていくはず。ネットと本を一緒に使って、確かな言葉、確かな情報を使ってほしい。

・ロングセラーの名著といわれる作品を30代の教師はもう読んでいないらしい。読んでいなければ、大人から子どもに紹介することもない。若い先生がターゲットだと感じている。

・発信について工夫をしてはどうか。西田小や阿佐ヶ谷中でSDGsの取り組みをしているが、それを区民は全然知らない。子どもたちの情報行動や情報の成果を広く見ってもらうため、区役所や図書館で発信し、区民と子どもたちの交流の手伝いをしてみるのはどうか。

・子どもたちが主体体動けるイベントを開催してほしい。また、子どもたちが図書館で行った調べ学習を図書館資料にしてはどうか。「どうしてこんなことするのか？」という子どもたちの疑問に対し、「地域資料として図書館でみんなが使うものになる」とすれば、やる気を生むのではないか。

・デジタル化については、柔軟な対応が必要。中学生に行ったアンケートの回答が、紙よりもタブレットの方が回答率が高かったとの報告がある。一人一台タブレットを渡しているからこそ届いたという仕組みができるのではないか。

委員 ・この計画によって、学校図書館はだいぶ変わり、子どもを迎える体制は整ってきた。しかし、先生が児童書をほとんど読んでいない。学校司書については研修も多く改善につながっているので、ここがうまくマッチすると子どもの読書活動につながるのではないか。

・5～6年生が調べ学習をしていたところ、インターネットで調べるのは情報が多すぎてなにかわからなくなるという声が出てきた。まず、図書室に行って、近いテーマの本を読んだほうが確かな足元が見えていくことに気づいてきた。いい気付きが出てきている。

・タブレットは、手元で情報交換ができるとか利便性がある。うまく使えば文房具として有能だが、ずっとこれにとらわれている子どもの健康状態は心配。どう使わせる

かが大きなステップになると思う。

家にいながら読みたい本を借りられるようになるとか、効率的に子どもの手元に情報がはいっていくようになるかもしれない。これらのネットワークをどう構築するかこ
だわって活用することを計画に入れられるといい。

・学校図書館の本を保護者も借りられるといいと思っているが、もう一歩開かれていない。

委員

・調べ学習で遠足の行き先などを調べる場合、最新版の旅行ガイドブックを常にそろえておくことはできない。それが個人のタブレットでできるようになるといいが、セキュリティやルール上の問題があるため簡単にはいかない。読書活動を推進する立場から改善に向けた取り組みができるといい。

・探求的な学習が求められている。総合的な学習の時間で、問いを設定し、結論を自分で導き出すことをやっているが、結論は誰かに聞くことで出てしまうこともある。それでは探求したことにはならない。ネットを使うと回答だけ出てしまうし、図書を使うには何冊も資料にあたらなければならない。上手に資料にあたりながらそれを参考に探求を深める、同時にネットも活用するという記述が必要になる。

そのような情報の使い方を教える指導者、サポーターを導入したいが、教員に研修させるには時間がかかり、課題である。

6 その他、自由討議、情報交換

○「NHK for School」で、子どもたちに情報活用の仕方を伝える番組が作成されている（「しまった！～情報活用スキルアップ～」ネット配信されている）。

○シャンティ国際ボランティア会の活動について
ミャンマーの状況、絵本を送る活動

○東久留米市 図書館フェス 2019 ひとハコ図書館めぐり

○会津若松市 一箱古本市 (2019)

○宮城県古川黎明高等学校と大崎市図書館とのコラボレーション

○水戸駅ビルで書店と学校図書館がコラボ

○安曇野ちひろ美術館 2018 年中学生ボランティア活動記録映像

7 事務局からの連絡事項

次回の開催は6月を予定します。